

# 効果的な防護柵の設置・管理方法は？

## 1. 中山間地域の防護柵の設置状況

島根県大田市で調査したところ、平野地域ではネット柵が、山間地域では電気柵とトタン柵が、また放牧地域では電気柵の設置が多かった。年々効果の高い電気柵の設置割合が高くなっていった。耕作地の全周を囲んだものだけでなく、一方の空いた「コ型」や二方の空いた「L型」も見られた。また、トタン柵やワイヤーメッシュ柵は通年設置のものが約半数を占めたが、電気柵はイネへの被害発生期直前に設置されるものが多かった。

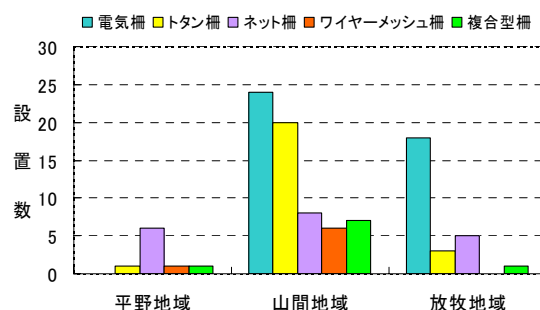


図1. 防護柵の種類（2005年）

## 2. どんな地域で被害は多いのか？

平野地域では被害を認めなかったが、山間地域と放牧地域では被害発生を認めた。主な被害発生原因は、防護柵の未設置、ネット柵の乗り越え、電気柵の管理不備などであった。イネの食害が多く、山際や耕作放棄地など雑草が繁茂した周辺で多かった。また、放牧地域では耕作放棄地などへ牛を放牧することによって、イノシシの隠れ場所が減少して、被害発生が少なかったと考えられた。

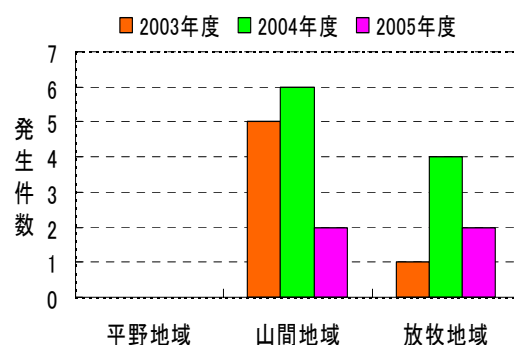


図2. 被害の発生件数

## 3. 効果の高い防護柵の設置・管理方法

耕作地を一筆毎に囲んだ防護柵が45%を占めたものの、複数を一緒に囲んだものが40%、また複数の農家が共同で大規模に設置したものも15%認めた。中山間地域の農家は、高齢化が進んでおり、集落などで大規模に設置すると経済的であり、維持管理も効率的であった。また、防護柵は、通年設置や植え付け直後からの早期の設置が有効であると考えられた。



図3. 一年中設置されている電気柵

## 被害対策のポイント

1. ネット柵ではイノシシの侵入防止効果は低く、電気柵は十分な電圧のないものが侵入を受けており、設置後の点検や維持管理が不可欠である。
2. 防護柵の周辺や耕作地周辺、耕作放棄地などの草刈り管理がイノシシを引き寄せないためには重要であり、牛などによる放牧利用はイノシシの被害軽減に有効である。
3. 防護柵は、個々に張るよりも集落など共同で大規模に設置すると経済的であり、維持管理も効率的である。設置が可能な中山間地域では、大規模な防護柵の設置と維持管理体制の構築が有効である。

<課題名> 既存防護柵の設置法における地域的問題点の解明

<目的> イノシシの農作物被害が増大し、各地で様々な防護柵が使用されている。この研究では、既存防護柵の設置法について、その問題点を明らかにして地域に応じた設置方法を解明し、効果的な共同防護体制を提案する。

<成果の問い合わせ先>

金森 弘樹（かなもり ひろき）

島根県中山間地域研究センター 鳥獣対策グループ

島根県飯石郡飯南町上来島 1207

電話 : 0854-76-3818

メール : [h-kanamori@chusankan.jp](mailto:h-kanamori@chusankan.jp)